

旭川市立神楽岡小学校第6学年 社会科 学習指導案

日時 令和7年6月17日(火) 5校時

生徒 旭川市立神楽岡小学校6年2組 39名

指導者 林 裕生

1 単元名 「縄文のむらから古墳のくにへ」

2 単元について

(1) 本単元に関わる学習指導要領の目標および内容(抜粋) 本単元の内容に関わる部分

【学習指導要領】～社会科の目標と内容～

(第6学年)

1 目標

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 我が国の政治の考え方と仕組みや働き、国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、我が国との関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解するとともに、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。

2 内容

(2) 我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の様子を手掛かりに、むらからくにへと変化したことを理解すること。その際、神話・伝承を手掛かりに、国の形成に関する考え方などに関心をもつこと。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

3 内容の取扱い

(2) 内容の(2)については、次のとおり取り扱うものとする。

イ アの(ア)から(サ)までについては、例えば、国宝、重要文化財に指定されているものや、世界文化遺産に登録されているものなどを取り上げ、我が国の代表的な文化遺産を通して学習できるよう配慮すること。

(2) 児童の実態

事前調査(アンケート35名)

①縄文時代や弥生時代について知っていることはありますか。(自由記述)				
縄文土器・土器(3名) 卑弥呼(2名) わらの家(1名) 縄文人、弥生人(1名) ペリー(1名) 分からない(30名)				
②どのくらい歴史の学習が楽しみですか。(4とても楽しみ～1楽しみではない)				
4(6名)	3(14名)	2(5名)	1(10名)	
③普段の授業の中で自分の考えをまとめる時には、どんな方法を使いますか。(複数回答)				
ノート(35名) オクリンクプラス(32名) パドレット(1名)				
④③で答えた方法はどんなところが便利だと感じていますか。				
・後から見返しやすい(ノート) ・他の人の意見も見ることができる。(オクリンクプラス)				
・書くよりも打つ方が速い(オクリンクプラス) ・交流がしやすい(オクリンクプラス)				
⑤話し合い活動で、自分の意見を発表することが得意ですか。				
得意(4名)	少し得意(4名)	普通(8名)	少し苦手(9名)	苦手(10名)

事前調査の結果①②が示すように、3分の2の児童が歴史の学習に対して意欲的である。一部の児童については、家庭学習などで既に予習している様子も見られる。一方で、本単元に関わる知識についてはほとんど持ち合わせていないことが分かる。

学び方については、事前調査の結果③④のように、普段からオクリンクプラスなどのICTを活用した活動に取り組み、そのよさを学習に生かしながら、自分の考えや集めた情報を整理する姿が見られる。一方で、事前調査の結果⑤が示すように、発表に苦手意識を感じている児童が見られるため、グループ活動などの交流場面では、話し合い方を工夫するなどして積極的に交流できるようにする。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

我が国の主な歴史上の事象について、当時の様子や代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や想像図、出土品、年表などの資料で調べ、狩猟・採集や農耕の生活や古墳の出現と広がり、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を捉え、表現することを通して、世の中の様子がむらからくへと変化したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①当時の様子や代表的な文化遺産などについて、遺跡や想像図、出土品、年表などの資料で調べ、必要な情報を集めて読み取り、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を理解している。 ②調べたことを年表や文などにまとめ、世の中の様子がむらからくへと変化したことを理解している。	①世の中の様子、代表的な文化遺産などに着目して、問いを見出し、狩猟・採集や農耕の生活、古墳の出現と広がり、大和朝廷（大和政権）による統一について考え、表現している。 ②狩猟・採集や農耕の生活、古墳の出現と広がり、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を関連付けたり総合したりして、世の中の変化の様子を考え、適切に表現している。	①狩猟・採集や農耕の生活、古墳の出現と広がり、大和朝廷（大和政権）による統一の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

4 単元の指導計画と評価計画

(1) 単元のねらいと研究内容1との関わり

①児童生徒が主体的に学ぶための課題設定と見通し

本単元は、小学校第6学年の歴史学習の最初の単元である。第1時では、人・物・場所などに注目して資料を読み取ったり、比較したりすることを通してその時代の人々の様子や変化を捉えるという社会科の見方・考え方を働かせた学び方について意識させる。第2時では、児童が米づくりの広がりによる影響について予想した内容を基に学習問題を設定したり、調べ学習のグループを作ったりすることで、主体的に学習を進められるようにする。

本単元の課題（学習問題）は、児童の予想をもとに、「米づくりが広がったことによって、社会はどのように変化したのだろうか。」とする。予想を確かめるために必要な資料について話し合うことを通して、グループごとの調べ学習について見通しをもてるようにする。また、それぞれが調べた内容を持ち寄り、交流することで単元の課題が解決できるという見通しももてるようにする。

②児童生徒が資質・能力を身に付けるための自己選択と学び合い

児童は縄文時代から弥生時代の変化についての学習をもとにしながら、古墳時代にはどのような変化があったかを明らかにする目的で調べ学習を行う。その際、どのような資料を調べたらよいかについて話し合うことで、調べる視点を「道具」・「遺跡」・「人物」などに整理できるようにする。児童は、自分の立てた予想が確かめられるような視点や他の児童の予想を聞いて共感した視点に基づいて調べる内容を選択・決定する。

調べ学習は調べる視点ごとのグループで行う。それぞれのグループは、教師から提示された資料についての情報を集めたり関連付けたりしながら、どのような変化があったかについてオクリンクプラスにまとめていく。



学び合いの場面では、それぞれの視点から考えた変化について説明・交流することを通して、縄文時代から大和朝廷の統一までの時代の流れについて捉え、表現できるようにする。


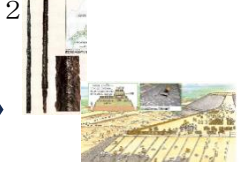
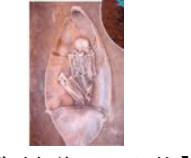


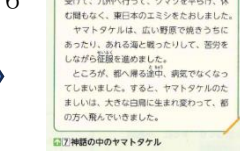


③児童生徒が学びの価値を感じる振り返り

本単元での振り返りは、第1時、第3時、第7時に設定する。第1時では、資料を読み取ったり、比べて考えたりする歴史の学習の方法について身に付けられたかどうかを振り返ることで、次時以降の学習に意欲的に取り組むことができるようにする。第3時では、調べ学習の進捗について振り返り、第4時に調べる内容を考えたり、課題解決に向けて自己調整を図ったりすることができるようにする。第7時では、単元を通じた振り返りを設定し、学んだ内容や学び方について振り返るとともに、時代の特徴を表す語句などに着目しながら縄文時代から古墳時代にかけての日本の歩みを振り返り、その後の歴史の学習についての意欲を高められるようにする。

(2) 単元計画 (7時間)

研究内容2との関わり	可視化の意図	発問の意図	○指導に生かす評価●記録に残す評価
------------	--------	-------	-------------------

時数	○教師の働きかけ ・「教科の特質を生かした発問」	○児童の学習活動 ・「予想される反応」	知	思	主
1	<p>○縄文時代の想像図や出土品の資料を提示し、当時の生活について考えられるようにする。その際、狩猟・採集の食生活や縄文土器など、弥生時代と比較する内容についておさえられるようにする。</p>  <p>○弥生時代の想像図や出土品の資料を提示し、生活の様子をまとめられるようにする。その際、米づくりが始まり、むらがつくられたことに注目して考えられるようにする。 ・「縄文時代と弥生時代には、どんな違いがありますか。」</p>  <p>○狩猟・採集の生活から、米づくりの生活へと変化したことをまとめる。また、学習の流れについて振り返ることができるようにする。 ・「時代の変化を知りたい時は、どのように学習を進めたらよさそうですか。」</p> <div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px; background-color: #fce4ec;"> <p style="text-align: center;">歴史学習の最初の単元であることから、資料を読み取ったり比較したりして考える基本的な歴史学習の流れについて見通しをもたせ、今後の学習でも活用していただけるようにする。また、特定の視点から資料を読み取ることにしてもおさえられるようにする。</p> </div>	<p>○想像図から分かることをノートにまとめる。 ・「魚や木の実を食べて生活していたんだね。」 ・「家は洞穴みたいだね。」</p> <p>○縄文時代との違いに注目しながら、弥生時代の生活についてまとめる。 ・「縄文時代より家が立派だね」 ・「くわや包丁など、道具も進歩しているよ。」 ・「稲作が始まったんだね。」</p> <p>○縄文時代と弥生時代の変化についてまとめるとともに、資料の読み取りや比較の大切さに気付く。 ・「資料からいろんなことが分かるんだね。」 ・「その時代の資料を調べたり別の時代と比べたりするとよく分かるね。」</p>	①		
2	<p>○米づくりが始まったことやその広がりによる影響を考えながら古墳時代の様子について想像し、学習問題を立てられるようにする。 ・「米づくりが広まった社会では、どんなことが起こったと思いますか。」</p> <p>○単元名を確認し、弥生時代の次の時代について理解できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【課題 (学習問題)】米づくりが広まったことによって、社会はどのように変化したのだろうか。</p> </div> <p>○話し合った内容を次のように整理し、学習の見通しがもてるようにする。また、調べ学習では、弥生時代の資料と古墳時代の資料を比較しながら考えられるようにする。</p> <p>〈見通し〉</p> <p>3時間目 注目する資料について個人で調べる。 4時間目 資料ごとのグループで調べる。 5時間目 グループごとにまとめる。 6時間目 交流し、学習問題をまとめる。 7時間目 単元をまとめる。</p>	<p>○前時までの学習や生活経験から予想を立てる。 ・「安定して食べ物が手に入るから、生活が豊かになったと思う。」 ・「水や食料をめぐる争いが起きたのではないかな。」</p> <p>○古墳時代について知る。</p> <p>○学習問題を解決するために注目する資料について意見を出し合う。 ・「出土品を調べれば当時の様子が分かるよ。」 ・「古墳が何かについて調べてみたい。」 ・「弥生時代と古墳時代の想像図を比べればよさそうだな。」</p> <p>〈想定する資料 (グループ) 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「道具」 (出土品・想像図) ・「遺跡」 (お墓) ・「人物」 (偉人についての書物) 	①	①	

<p>○児童の求めに応じた資料をパドレットに整理する。また、調べる視点を提示し、調べ学習に活用できるようにする。</p> <p>【資料群Ⅰ：道具】</p> <p>1 </p> <p>2 </p> <p>3 </p> <p>4 </p> <p>5 </p> <p>6 </p>	<p>○児童の求めに応じた資料をパドレットに整理する。また、調べる視点を提示し、調べ学習に活用できるようにする。</p> <p>【資料群Ⅰ：道具】</p> <p>1. 吉野ヶ里遺跡の出土品や想像図</p> <p>2. 江田船山古墳と稲荷山古墳の出土品（鉄剣）や古墳時代の想像図</p> <p>〈調べる視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容物の違い ・出土した時期 ・出土した場所 <p>【資料群Ⅱ：遺跡】</p> <p>3. 甕棺墓</p> <p>4. 仁徳天皇陵古墳</p> <p>〈調べる視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古墳とは何か ・古墳の成立時期 ・誰の古墳か ・大きさ <p>【資料群Ⅲ：人物】</p> <p>5. 魏志倭人伝の抜粋</p> <p>6. 古事記の記述</p> <p>〈調べる視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を成した人物か ・活躍した時期 ・治めた国の違い 	<p>①</p>	
<p>4</p>	<p>○調べた内容をグループで交流することで、理解を深めたり、内容を補完したりすることができるようにする。</p> <p></p> <p>○交流した内容をもとに、グループとして時代の変化についてまとめられるようにする。</p>	<p>○個人で調べた内容や疑問を交流しさらに調べ学習を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なぜこんなに離れた場所から同じ剣が見つかったのだろうか。」 ・「これだけ大きい古墳を作るには、たくさんの人と時間がかかったはずだ。」 ・「前にみた想像図と様子が違うな。どうしてだろうか。」 <p>○資料から考えた変化について視点ごとのグループでまとめる。</p>	<p>②</p>
<p>5</p>	<p>○発表用のワークシートを提示し、次時に向けた準備をしたり、第6時で活用したりできるようにする。</p> <p></p> <p>第5時は、それぞれのグループの中で調べ学習の成果を整理し、資料や時代の変化についての理解を深めるとともに、第6時に向けて、どのような変化があったかについての説明を考える場面である。児童はオクリンクプラス上に蓄積している情報を基に、ワークシートを活用しながら時代の変化について説明する発表物を作成する。作成した発表物は、第7時の学習のまとめにも活用できるようにする。</p>	<p>○調べた内容を基に、全員が同じ説明ができるように発表の準備を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お墓が大きくなったことは伝える必要がありそうだね。」 ・「指導者が力をつけて豪族や大王になったことを発表しよう。」 	<p>①</p>
<p>6 本時</p>	<p>○各グループの発表を黒板に整理し、時代の変化について考えられるようにする。</p> <p>○各グループの発表をまとめた板書をもとに、学習問題についての自分の考えをまとめられるようにする。</p>	<p>○グループごとに時代の特徴や変化について交流する。</p> <p>○発表や板書をもとに、学習問題について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「米づくりが広まった結果、むらからくになくなって、やがて一つにまとまっていったんだ。」 ・「大きな力をもった人物がくにを支配していく世の中になったんだね。」 	<p>②</p>
<p>7</p>	<p>○学習内容や学び方の振り返りを行う。振り返りを交流し、次の時代の様子について予想を立てられるようにする。</p>	<p>○単元を通した振り返りを行い、学んだ内容について整理したり、学び方のよさについて気付いたりする。</p>	<p>①</p>

5 本時の学習（7時間扱いの6時間目）

（1）目標

調べたことを発表し合う活動を通して、縄文時代から古墳時代の世の中の様子の変化を捉え、表現することができる。

（2）学習評価

古墳の広がりや大和朝廷の支配の様子に触れながら、争いを通してむらからくにへ、くにかから統一国家へと世の中が変化していったことについて考え、記述することができる。（思考・判断・表現）

（3）本時のねらいと研究内容2との関わり

①教科の特質を生かした発問について

- ・「大和朝廷の力の強さや大きさは、どのくらいだったのでしょうか。」
- ・「米づくりが広がったことによって、どのような変化が起こり、社会の様子はどのように変化したと言えるでしょうか。」

前時までは、児童の予想を出発点として、資料の変化について調べ、まとめる学習を行ってきた。本時の前半では、各グループが調べた資料の変化について発表・交流を行う。それぞれの発表の内容からは、争いの形跡や古墳の広がり、広範囲を支配するくにかの存在が明らかになる。本時の後半では、変化の結果として大和朝廷という大きな国ができたことに気付くことができるような発問を設定する。これらの発問と板書を通して、稲作の登場により人々の生活が安定・発展すると同時に、争いや貧富の差が生まれ、むらからくにへ、そして大和朝廷へと変化していった経緯を考えられるようにする。

また、本時の終末で改めて学習問題について問うことで、単元を通じて学習してきた内容を振り返りながらまとめられるようにする。

②思考を束ねる可視化の手立てについて

【板書】

本時における思考を束ねる可視化の手立は、板書による時代の変化の流れの可視化である。本時前半における児童の発表の結果を、時系列を意識しながら可視化を図り、縄文時代から古墳時代までの流れが見て取れるようにし、大和朝廷の力大きさや変化のきっかけ（米づくりの広がり）、変化の内容（争い、くにかの出現、豪族・大王の出現）、変化の結果（大和朝廷の統一）の3点を強調して束ねることで、児童が学習問題に対するまとめを「はじめ・中・おわり」の形で記述できるようにする。

(5) 展開

過程	○教師の働きかけ ・「発問」	○児童の学習活動 ・「予想される反応」
導入 5分	○本時のめあてを口頭で確認し、学習問題を板書する。	○本時の見通しをもつ。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">めあて 調べ学習の成果を交流し、学習問題について自分の考えをもとう。</div>	
展開 30分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【学習問題】米づくりが広まったことによって、社会はどのように変化したのだろうか。</div>	
	<p>○グループごとに調べ学習の結果について交流し、複数の視点から時代の変化について考えられるようにする。</p> <p>○グループの発表を板書する。板書は、児童が以下の点をおさえられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・争いがあった ・むらからくにへと変化した ・指導者から豪族・大王となった ・墓（古墳）が巨大化した ・大和朝廷が出現した <p>○板書で、時代の変化について整理し、学習問題のまとめに生かせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「縄文時代や弥生時代のむらは、どうなりましたか。」 ・「弥生時代に指導者と呼ばれた人々はどうなりましたか。」 <p>○大和朝廷の大きさや強さについて話し合い、古墳時代にはくにながまとまっていたことに気付けるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大和朝廷の力の強さや大きさは、どのくらいだったのでしょうか。」 <p>○弥生時代との比較を通して、変化のきっかけについて考えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どうしてこのような変化が起きたのでしょうか。」 	<p>○自分が調べた内容とのつながりや共通点について考えながら発表を聞く。他の班の発表を聞いて大切だと思った言葉をワークシートにまとめていく。</p> <p>＜発表例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「遺跡に注目すると、豪族などのお墓である大きな古墳が作られるようになりました。弥生時代のお墓と比べると、とても大きくなっていることが分かります。」 ・「道具や想像図について調べると、争いがあったことや、指導者がさらに力を持ち、豪族や大王と呼ばれていたことが分かりました。」 ・「人物について調べると、むらからくにへ、さらに大きな大和朝廷というくにへと変化したことが分かります。」 <p>○縄文時代や弥生時代との比較を通して、時代の変化について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「古墳時代にはくになくなって、さらに大和朝廷という大きなくになつた。」 ・「指導者と呼ばれた人々は豪族や大王と呼ばれるようになった。」 <p>○大和朝廷について考え、古墳時代が収束していったことに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たくさんの人や時間を使って古墳を作らせることができたから、とても強くて豊かな国だった。」 ・「広い範囲に大王の名前が残っていることから、大きなくにだった。」 ・「九州や東北を治めたという記録があるから、日本を統一するくらい大きな国だった。」 <p>○時代の変化の始まりに注目し、弥生時代からの変化について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活が豊かになってむらからくにになったりしたから、米づくりの影響が大きいと思う。」
	<p>○単元の課題（学習問題）に立ち返り、板書をもとに個人でまとめを考えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「米づくりが広がったことによって、どんな変化が起こり、社会の様子はどうなったと言えるでしょうか。」 	<p>○板書をもとに個人で学習問題のまとめをワークシートに記入する。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">まとめ(例) 米づくりが広がったことによって、人々の生活は安定し指導者は豪族や王と呼ばれるようになった。大きくなったむらはくにと呼ばれるようになり、古墳時代の終わりには、大和朝廷が多くのくにを従えて国土を統一した。</div>		
終末 10分	○本時を通して単元の課題を解決できたことを確認して、単元のまとめである次時への見通しをもてるようにする。	○今日の学習内容を振り返り、次時への見通しをもつ。

単元デザイン案 小6 社会科 「縄文のむらから古墳のくにへ」

単元の見学					
我が国の主な歴史上の事象について、当時の様子や代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や想像図、出土品、年表などの資料で調べ、狩猟・採集や農耕の生活や古墳の出現と広がり、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を捉え、表現することを通して、世の中の様子がむらからくにへと変化したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。					
時数	○教師の手立て ・「発問」	○児童の学習活動 ・「予想される児童の思考」	知	思	態
1	<p>【課題設定のプロセス】</p> <p>○想像図や出土品などの資料から縄文時代と弥生時代の違いについて考えられるようにする。</p> <p>・「縄文時代と弥生時代では、どのような違いがありますか。」</p> <p>〈キーワード〉 狩猟・採集 米づくり</p> <p>○縄文～弥生時代の学習を振り返り、歴史学習の学び方について理解できるようにする。</p>	<p>○想像図や出土品の資料から、当時の生活を予想したり、教科書や資料集で調べたりしながら、縄文時代や弥生時代の様子の違いについて考える。</p> <p>・「お米を作っているんだね。」</p> <p>・「人々は定住するようになったんだね。」</p> <p>○想像図や出土品、遺跡の様子を調べることで当時の様子が分かることを理解する。</p> <p>・「出土品を調べれば、当時の暮らしぶりが分かるね。」</p>	①		
2	<p>【課題設定】</p> <p>○米づくりが広まったことによる影響を考え、時代の変化について予想できるようにする。</p> <p>【課題（学習問題）】 米づくりが広まったことによって、社会はどのように変化したのだろうか。</p> <p>【見通し】</p> <p>○調べる資料について話し合ったことをもとに個人で視点を決定し、調べ学習の見通しをもつ。</p> <p>〈予想されるテーマ〉物 建物 人々</p> <p>○個人で調べ学習を行った後、同じ視点でグループを作って交流し、最終的には視点同士で交流することで、学習問題をまとめられるようにする。</p>	<p>○時代の変化について予想する。</p> <p>・「人々の生活が豊かになったのではないか。」</p> <p>・「食料をめぐる争いが起こったのではないか。」</p> <p>○予想を確かめるために着目するとよい資料について話し合う。</p> <p>・「人々の生活について調べるには、出土品に注目するといいんだよね。」</p> <p>・「建物や遺跡の変化について調べてみよう。」</p>		①	①
3	<p>【課題追求】 〈情報収集〉</p> <p>○調べ学習は主に以下の3つの視点で行うようにする。</p> <p>①資料の説明 ②資料から分かる時代の特徴 ③時代の変化</p>	<p>○個人で調べ学習を進める。</p> <p>・「どんな建物が作られるようになったのだろうか。」</p> <p>・「日本の各地で剣が出土している。だから…」</p>	①		
4	<p>○個人で調べた事柄を持ち寄ってグループを作成し、交流を通して資料から分かる時代の変化について考えられるようにする。</p>	<p>○同じ視点の児童と交流し、資料から分かる時代の特徴や変化について考える。</p>	②		
5	<p>【課題追求】 〈整理・分析〉</p> <p>○グループで交流したことをまとめ、他のグループに向けて発表できるようにする。</p>	<p>○発表の準備をする。</p> <p>・「調べたことをまとめて、発表の準備をしよう。」</p>		①	
6	<p>【単元のまとめに向かうプロセス】 〈学び合い〉</p> <p>○各グループの発表の内容を板書にまとめ、それをもとに学習問題のまとめを考えられるようにする。</p> <p>・「米づくりが広がったことにより、どのような変化が起こり、社会はどうなったでしょうか。」</p>	<p>○発表、交流、板書の内容を通して、時代の変化について総合的に考える。</p> <p>・「大和朝廷が力をもっていたんだね。」</p> <p>・「近畿地方を中心に日本はまとまっていったんだね。」</p>		②	
7	<p>【単元のまとめ】</p> <p>米づくりが広まったことによって、人々の生活は安定し指導者は豪族や王と呼ばれるようになった。大きくなったむらはくにと呼ばれるようになり、古墳時代の終わりには、大和朝廷が多くのくにを従えるようになった。</p> <p>【単元のふりかえり】（記述例）</p> <p>古墳時代の人々の様子について、争いによって大きく変化したことが分かった。人や場所、物に注目したり、友達と協力して調べたりしたことで、一人で学習するよりもより深く知ることができた。</p>				①
知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
<p>①当時の様子や代表的な文化遺産などについて、遺跡や想像図、出土品、年表などの資料で調べ、必要な情報を集めて読み取り、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を理解している。</p> <p>②調べたことを年表や文などにまとめ、世の中の様子がむらからくにへと変化したことを理解している。</p>		<p>①世の中の様子、代表的な文化遺産などに着目して、問いを見出し、狩猟・採集や農耕の生活、古墳の出現と広がり、大和朝廷（大和政権）による統一について考え、表現している。</p> <p>②狩猟・採集や農耕の生活、古墳の出現と広がり、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を関連付けたり総合したりして、世の中の変化の様子を考え、適切に表現している。</p>	<p>①狩猟・採集や農耕の生活、古墳の出現と広がり、大和朝廷（大和政権）による統一の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。</p>		